辯道書

續群書類從
教育部

中山閲了

仁13
1622
98

門 ロ七13
號 1.122
卷

春臺先生撰

辯道書

江都 書肆嵩山房開板

凡テアリガナハ削リ但右側ニ筋ヲ引ケル分ハ必ラズ附スベシ

辯道書

太宰純

儒佛神道の同異爲ぐ面よ小論辯ハ本大略出解
ひ〻ぐ〻し〻年繁多ゝて遂一に記憶なりがゝく其
こ〻ろ〻を〻ひ〻だ又ハ疑惑起りハて難義に當純年日
論辯ハ趣を委く紙上ハ記ハ其人意ハ少の論
不程其こ〻ろ〻ハ先生常に作ハ聖德を述
言に儒ハ佛ハ乃ハ鼎の三足の如くなり相ことなる能
けるの甚ハ為ぐ〻くハ鼎の一足とも缺

鼎

ね業の喩めてくい者ってのくぞ佛乃氏まつく
思ひきまつ元儒乃と教せてしいはるり事ってのれ神乃氏
一つの道に立る事い後世に起りいて太子の御小者き
るりあてくい給りに神乃氏ってくれ儒佛の二道に当ってて
三乃ち鼎の三足のあくてに立てくれ叶ふ地とし
給ふる伝じがくい生ってに出佛法くのくぞ
為りに成い御効に得りりあくのくれ下国に養りあどし
給てくぞ訣ってくれ乃氏を意盡成ってくれ
先 本朝に聖を尊ひりに神武天皇より三十代歌

天皇の治までい 本朝に道をいふり来ってくれ第事うの
くまつの事に三十二代開明天皇れ皇子れ厩戸乃王
聰明の人生れ給い生れ漢籍を学び尚しまして三十四代
推古乃皇れ御摂政の位に居まつて官職を定め冠服
を制し礼儀を興して国民治め民を安き文明の化
世天下に施したまいい
聖
の事ともいふべき人めくいさしを聖徳太子と温せれ
きまつも皇子西の方くれい拙き太子れ学び仏小精
く儒に精くい乃釋氏乃為ば深く好まれい

ども中華の聖人の道をば学ばんとの人々いきの
上述作の書を多くも作りつぎ出で後世を是非成
りぐくは今時世にたるべき設けなくしてかなしい事
多くは後の聖人の誣妄杜撰にして作りがくは近代舊事
本紀とかつ古成太子の著述とて珍重する人多くは其
書を見ひろめ近世の人々偽作なるべき論明白なりは
書公を以て書成は後世にたるべきいくの
如くなるべきとは石はいと大なる惑にして其事はなく儒
佛神道を鼎立不穏なる事も決定太子の云ひて

あり儒佛くは若実に言ひたるべき太子の妄説
ふくは世義数度曲説の事ふ出公なるべくは
当文殊菩薩に関く参遠なる凡今の人神道城影
国を思ひ傷仏道をかなしべく是一つの乱
世大なる乱なりて神乃ち聖人の道の中にて
くは周易に観天之神道而四時不忒聖人以神道
設教而天下服矣とあるべく神乃ちのふと始く成文
之の天之神乃ちは日月星辰風雨霜露雷霆昆虫草木
万物のなさる所の間にあるべき人力の所為あら

ぶ[仰ラル]ゝ所の神の御名なくして造化[ゾウカ]より起り是を
以て國統す[仰ラル]ゝ所天の神乃ち聖人以神道設教
[聖]
[事]
給ふ聖人の乃ち行ひ給ふ事天成奉じ祖宗乃命成文
て行ひ給ふ事しば古の先王天地山
川社稷宗廟の人鬼祭祀を鬼神に
[禱ひ]
法ふ民乃為に成れ[ボウ]ものを[ボウ]無し[ボウ]疑を決
するが如き凡の事ある鬼神と称ふ人と
事成ぬ事を為ふ鬼神の教ふ所の其事を統統
[義理を]
ぶ[仰ラル]ゝ所又士[ボウ]ものを無民

[者]
[聖]
[者]
[者にて]
[仰ラル]

ゝ思[ボウ]時なり者ありて事小[ボウ]疑[ボウ]おそれ[ボウ]ものに鬼神を假
て教[ボウ]ものを[ボウ]ば一定[ボウ]ものゝ聖人[ボウ]成れ
めして[ボウ]ものを民を導[ボウ]ものゝ必ず帝神[ボウ]ものを称[ボウ]ものを
成出[ボウ]ものゝ聖人の神乃ち聖人以神道設教[ボウ]ものを
是[ボウ]ものゝ近世理学者流[ボウ]ものを理[ボウ]ものを明めて鬼
神小[ボウ]ものゝ事[ボウ]ものゝ一切に鬼神を祈り成[ボウ]ものを
聖人乃民を治る術[ボウ]ものを鬼神成[ボウ]ものゝ人[ボウ]ものを
乃成[ボウ]ものを[ボウ]ものゝ君子三畏乃第一[ボウ]ものゝ畏天命
[仰ラル]
ゝ孔子[ボウ]ものを[ボウ]ものを命ふ天の神乃ち人[ボウ]ものを成ふ

測られぬ故に是を鬼神とくに云ふ国易に繫辭に
陰陽不測之謂神といひ説卦に神也者妙萬物
而為言者也といふ皆鬼神の妙用をいふ
孔子曰人能弘道非道弘人の命鬼神の志ばかりの
教ふるこゝろ人を忘れず鬼を敬ふ
分ちと云くは下民を教ふるまことを
敬ふ方便なく鬼神をいひ立るこゝに義を
理学もこれ初る所なり
乞ひてこゝに祝をバ神乃ち実ふ人の道の中に

是若し聖人の乃ち別に神道として一つ
なるこゝにとして世に神乃ちまいに仏法に儒者の乃を加へ
なく建立したる拠ふてこゝに建立する表云家の佛法渡
りて後の事にこゝに吉田家の先代ト部兼俱より世
に仏ありのと見えこゝに思ふ神職の家にて仏乃ふ祈
の事にの成ふて第一に思ひ本邦の巫祝の乃勤
淺ましなるを嫌ふ七八分の仏法に三分の儒道を配
剤して一種の道を造りかしこいまの幸徳傳舎こ
ゝ初めこゝに聖徳太子に時に決定して記事と

ゆいを見ずくゆいは乃ちなほ世ふるべき事にあらざれば
今の神乃に神ものの行の行儀加持などの法儀修験
者くさ言家の所闇梨護摩師乃ものなりの業を教るい
見巫祝の道ゆて神乃ゆ肝要ていふくは巫祝こいふる
鬼神に給事をる者ふくゆ國家ふるゝでけいわをる者
都小国禮の春宮に大祝小祝喪祝甸祝詛祝司
巫男巫女巫乃宮あるて鬼神の事祝を奉ゆ此
法度は天子乃社稷以下乃祭祀を家の大
祝ゆ始をるべくの職事ありてを後を務いし事い

只專鬼神小給事ゝ祭祀行儀祝いふのをあれく
別ゆ乃ちなほ行る後其家にお信をゆ祝は関乃代の巫
祝の不作いゆ所なる神といふ後今考ふ廣き新ハ法
則ふのべる大略今ゆ世の所闇梨陰陽師祈宜神を
神子山伏などの不作ゆ似る物ていふべくゆ者と今と
吋を異ゆ〳〵異國を異ゆ　本朝を後祝漏つる都小を後
武名員ゆかいるべくゆ元を東作ハさのゝ大小異なるとし
有中べく則ゆ世俗ちゝ人情物理古今同様形る都ゆ代
巫祝の乃ちゝ名子ゆ道とはおなを物ていを考ふうり

あらんかぎりこれ戒乃めくるもの事なり
ものしき事をあらそひたへたる事の害にあらずいはん其
まことに捨置れ神ならの類をば彼等に任せんとて古の
聖帝明主も号令開なりて百官の列に入られし後世
ふるき人伝授なる掟のるる部りにはいと西門翁がおもき
者ども号を治し沈や先代財に古掟の事いかくは待
まじ巫祝ども別に一様のおもむきて常に道ふ所ならば
城郭の人まこと城郭のごとく行の用に立はんや今の人神
乃を嘗ずして不浄なる家乃内ふ神壇を作り不浄なる

衣服を着し一浄なる仏菩薩に神を
祭り巫祝ども多くの行ひをなすと鬼神ふ魅まし鬼
神を憑まして絶ふ乳人する老ども多くは今の神乃家
ふふ来れ神明ならず仏家にいふ如来ならくは仏の神明ぞ
いふ仏象ふいふ唯仏の浄土ふ神実ふ如来あてふ根の
国底ふ悪ふいふ死して後ふ生ずるいふ肉身
清浄ふ根清浄などいふ事ふ仏象ふ好悪を添て善
悪ふ神ふ乃ふ仏ふ根清浄ふいふ法華経ふ
出ず神道家にも名員ふ癒ずる数ふ立ふる拙出ふ

恐じて今の神たちのふい唯一三元宮の人どもを始め仏乃
おなつかくさく社撰志をもて事なる教ふかんをは仏道を敵
すれ取うるれ内は一統用ていれ神乃乃めくるる
事中古までハ無ちかりし教ふ等の記録偽名の紙
の中にも及ぶ事ハ是非にて空海大神道いまだ
有ぐ中ちに成治ひ公ひ為くハ有にはめく神乃義
中ちの文字ハ用易て出ぬ人の道の中ハ一表ふ
事ひ成治ひ者ハ巫祝の乃を神乃と仰ひ事ハ王公大
人より士農工商に到まで是好と学ぶ者多くハ

大なる誤まくハの外の俳事ハ巫祝ひ乃ハ鬼
神に給ひするの事ハ吾人者の分を修め家成治勤
国を治めるを成治むる道と思ひ巫祝ひあり
ば者ハ知ぐ者ハ知ぐ者ハ事かげずハ男士者ハ
学ぶべきなに思ひ者ハ中義にて
国体代の事ハ雲程乃盛に行ひ孔子乃を尊ぶ
ひ乃に形ひ者ハ無ひ者ハ孔子乃を儒墨と称ひ
ハ後墨氏の道廃まく漢の代ハ黄老乃道興ひ
黄老ハ黄帝ハ老子乃ハ

古の黄帝を祖とし玄黄を老子の乃ち中に東漢の時より
仏法中国に入て世に仏法盛んなりし故に於て後に孔
子の道を釋老の道を学べく儒釋道と称しは道と
いふを老子教を道教といふにより儒教道と中に
は三教三教とは教の教を道教の教を道教
世に仏教と我国の道を思ひ出神道は巫祝の
伝ふ所にして極て小きなる人知り儒は唐土
の道伝を聖人の道神は日本の乃ち此三道は鼎の
三足のごとく国家を守り護すべきなり事

口授しき事ありは仏道は釈迦の教をは釋迦を
天竺摩竭陀国の浄飯王をいふ王を父にして幼さ
時を悪逆をは耶輸多羅といふ女人を妻にして
羅睺羅といふ子にして多十九にして発心出家
事乃を夢ひしは国王の太子にして王位を継べき人なり
是を厭ひ父母を妻子を捨て家道世を捨て
は人間を捨て極楽乃ものに心にして身一つを自生
にせんと捨て浄土の清浄を願ひ欲を離れ世にして是
を離れ一つにあ楽にせんとなり付て乃ものは

出家とは父母の家を出て山林に入り身を浮雲流水
のごとくなる僧を釋迦の弟子と云僧中釋迦
の道は國王の位を捨て一つ乞食する乃ち
は出家を成ずる者は士農工商の業を捨て上に忘れ
下に忘れ親ばかりを捨てふと出て流浪の身を
だ父母なし妻子なし兄弟なしバ子なし兄弟
なく男女共に夫婦こゝろなくして父母
形ばかれだ天地もなく世を離れ人間の交りを捨て
バ朋友こゝろなく衣食
なくして山林に入り身を浮雲流水

なくして乞食を業とすなり乞食とは只今の乞丐人のごとく食を人に請て食を乞ふて
家なく食物をも作らず根なる数ふ芋を作を
く辻ふ立ひとだこゝろの人部屋に飯を持来て
入まは又施食の志ありて新しき食物を施す者
皆は鉢中の食物其日命をつなぐばかりなれバそのまゝ
ゆりこゝ食を食をくゆる又そのまゝおい衣服を脱りて
美こゝ事ハこゝは天竺の人ハ清浄成婦ハ不浄を悪むが加
て凡病人死人産婦乃至又ハ水に流

を外の穢を清めて本性を持出す糞壇に
に棄る者なり僧尼の人も毒壇に棄る布帛
帛を拾ひ取て油うく皂角水にて洗ひ清めて綿練綾
羅布帛の嫌なく絹の紙綴の集く袋に作る
是を糞雜衣と云也被布と云も人の棄る物を拾ひ集
物なり故に僧尼の所服第一の法服と定む
糞壇に棄る物を拾ひ取て袈裟に作り出家の餘
乃至拾ひ集め洗ひ清めて或は樹の枝搭
枝下などに敷て風雨を防げて寂寞空閑に入て坐禪し心

虛

を修する者なり世間の情欲を捨て一生を小寺に住
を道とし世間の情欲を捨て身心を清
ふものを肝要とす人の情欲を数の塵を分て
中に貪欲瞋恚愚癡を三毒と名つけ人を害する
毒こんの中に是を除く工夫をし眼耳鼻舌身意を六
根と名づけ色聲香味觸法を六塵と名付け塵は物
を汚す者なり故に六塵を外に出さず我ら遠ざ
所を六塵と名づけ六塵を外に出さず我ら遠ざ
ける境界なり故に是を外境と云ふ儒家にては誠

世外捨てゝ出家する人者六根付て六塵に遇ひ
て種々の情欲起りて人の身に煩悩を中に修行
修人部ゝ所ゝ時くるを受ゝ釋迦の道
を学ぶ初出家する人者弁恩入無為真實報恩者ゝ
を唱ゝ付意は父母の恩大なる恩を忘れて仏に
入ゝ道を実不報恩する者ゝ世ゝ義ゝ世ゝ流ゝ父母を
弃ゝ恩愛乃情を離れ夫婦なけれ共男女の情
を忘ゝ世ゝ食ゝ酒ゝ肉ゝ葉ゝ衣食の美ゝ人ゝ
財ゝ名ゝ家ゝ財ゝ火盗賊ゝ恐

れ人ゝ世ゝ一ゝ安ゝ不ゝ墜ゝ泥ゝ梅ゝ花ゝ枕ゝ草ゝ
ゝ世ゝ山林ゝ流通ゝ世ゝ百ゝ年ゝ六塵ゝ接ゝ遇ゝ
ゝ心ゝ六ゝ塵ゝ境ゝ遇ゝ濁ゝ六根更ゝ汚
ゝ六ゝ根ゝ清浄ゝ人ゝ動物ゝ
物ゝ見ゝ聞ゝ知ゝ情欲發ゝ止ゝ
ゝ人乃心ゝ少ゝ如ゝ仏家ゝ妄ゝ起
ゝ如ゝ人ゝ肉ゝ行ふ玩弄把持する事なけ
ゝ妄念妄想ゝ仏ゝ禅ゝ

静むるを習ひ性に移すの法あり数息観とは、
鼻端に安置して呼吸の長短を数ふるに、
俗人放逸にして心念散じ不浄観とは人の身の
不浄なること臭穢不潔なるを観ずるなり赤白
九相の持ち来を深じたるなり観とは男女好色の情
を除んがためなり月輪観とは胸中に光
明圓満の月輪を観ずるなり観とは人形
の色相を観ずるなり掃除とは明月しかくにして
物ハ月輪を胸のうちに生ずるを観ずしいが後ハ身
胸中に

入て身心ともに月輪ふ成ると観ずしいは人月輪
観の功積りて後ハ暗中に燈なくして光明を
見ていは事仏像に水想観とは身が一身清く
みなに南ると観ずるなり観とは人の身ハ地水火風
の四大假り和合して出来るなり物ものゝ性不淫
大空に海るなり義を観ずるなり或は
義を観ずるなり或は仏菩薩の相好を観ずるなり
小乗の禅法なり観とは清ちよ荘
厳を観じ
明燈を掃除しく業の垢を去んがためなり

ふつと梵語あり漢語あり覺と翻釋しいはゆる覺と覺悟ふ
く和語ふとなるふ別ごとにはこゝ一切世間ふ皆
吾人の樂しむる見せる物ごとに悟すなわちこれ
義なるゆゑに六塵八六根をもつて愛が情欲
我に引き起物なるに我其ものを香にめでく加ふ我ばかんある
故ふ煩惱なるゆゑ貪欲も瞋恚も邪淫も殺生
偷盜ふ過ぎもなし妄語綺語の邪をもいつく自他の
喜ばせしいふ我慢のみなく六塵ふ彩ごとを
思ひく生ずるゆゑ一切世間ふ事ふ

ふを貪著ふ会ふく人類いつもふ煩惱ふのみくるゆゑと
ふ世ふ我覺とふ仏祖家ふ大悟こいふもこれ理ふ我悟ふ
聞くべ物ふ聞くふて聞ふ迷ふ有ふ化おりこれ
樂しさ事ふ何ふ面に多ふ楽してんごをく為ふ
狐ふごくふれふごと悟ふ者ふ成ふ為ふ
ふくふれまで面ふ事ふ悟くなるこいめく
仏ふ悟ふ者ふ仏ふ迷ふ者ふ仏ふ悟ふ成同ふ
ふ仏ふ仏ふ仏ふ仏ふ仏ふ仏ふ仏ふ仏ふ仏ふ仏ふ
ふを覺ふ覺ふ澤しいけ覺ふんになるこいふ成就の公

極しい拙なる仏乃八只是一人成明むる道なていに人に
教ふ命をもち人乃一必成ぬるめ生ぬるに乃ぢは佛法
事
も大乗小乗五時八教などつるもろもろの教法の経
海か移くも法を演説せしに後業の祖師らに
依て移ぬ乃宗門を立て世の人成教導しいらぬ世ふ
を法宗門教法合はもく淺深不同に出を輝竟人法
の出の法のこにていは仏下機の為成教解
ぐこと教と長佛誦経写の不作を授く生を用すれば
仏まるもと教ふ人を導成門人乃方便ていは未の

教を生辨新長念して心法成悟ふ乃に仏ふるを
ふくいん法を学ぶ乃ぢ仏ふ讃ていに依て演説念佛して佛と
なれぬ事ふ乃は決ていなくていは儒者乃道ハ二帝三王
乃乃ふていは二帝三王を法名の聖乃子なる教ふを乃
教じて先王法道を中は先王乃道を天下成治る道ていて
は佛道を不作ぬ人演説ふく廣大なる教に
見元ていを乃下に法乃ふあらを獨身の一人を治
僧道ていは右に中はく佛は出居ぬく仏ふるを夫婦法
中ふを乃形ふく朋友なく國を治く家を乃ぬ出ていは者

だ獨身の外に治むべき物なくして今獨身成佛の
法を學ぶ道は學べば同身にして凡夫の心大なる法
深しとは釈氏の人を化し命食し士農工
商は業を勤めて世を渡す
邦令合しとは善惡の業報は
いつはり成難きゆえに僧は食を乞ひ拾
ひて身を扶け城市を巡りて鉢を飯
を合ひは釋迦の法に行ひて熟食を勧めて食ふ
拾ひくは法を説くを許されぬ衣服を糞雜衣

を用ふる法なるに今は僧を待遇し給を
不法樹下石上は
僧し僮僕を召使ひ樹菓汲水の勞成
を加へ中に大剃を修する家の僧は衣食奉
養車馬僕從世俗人に擬して榮耀成極
むるは釋尊の法にあらず世の僧は佛
法の本意成を信人と異なれば狀を
自己成望と思ふ
僧侶は法を傳ふ人は今の
僧成るにて世俗成

者居士といふ人ありけり今の世の僧侶一時に住持ありて
以ての外奴僕を多く使ひ大剎の住持と数多の僕従を高い
く使ひ士大夫國君乃儀式を換はれいさう禮儀全くまつ居
の世にしてい仏法小乗の法を捨てて大乗の法を弘めるとい
ふ中に成法師の法を捨てて別法といふ法を捨てて無法
脇にふ時文子に準じ事あいさうれで弟子成高ふ
とふ人ありけり君の事人君の子を出すする
ぐめく寺を造り財寶を成儲ること世の人乃田宅家産を
儲るとひとしく如し一生全く仏法道あるくい者多者人

中にて先輩成法兄弟一段学を法者とする八兄弟乃
乃ふくい師の法兄を法伯といい師乃法者を法叔といい
法兄法弟は弟子成法姪といふ元を仏の法縁ばつづ
たる者成法養といふ養を親養の養にて親者ら親
類の中ばでい仏法を人伝成法しいとをう屋う
ふ乃出家ふ人ふ自我の住て新人伝の逃れがそこ
ば法ふくい文伝法乃宗伝一度に集り和会して学
問修乃ふ乃ふ成一味和合ふいはすばふ朋友ば
道ふくい法ふ伝家を考居父子兄弟朋友の道

理いまだいくばくの日を経ずして釈氏の
後世の妻帯の俗ありて中興に至りて火宅の
内の夫婦なりしかども男女の愛は天性
なりて生ずるいとなみ雑なれば人間の夫婦を捨て
仏中に入ずといふ事なり又今は俗人寺院に住
しかども国家の役人庄園を領し田租を納る
ばかりなれば公家の玉帛に法の如く中に俗
録本寺觸頭なるものをもつて定めまもりて其一宗

乃政治行ふ者にして必ずも是すなわち国家の役人少しかも
寺院の俗人なるもの皆民にくらべて
すでに法治逃るべきあり法をば今の俗は釈氏
のごとく其中に官職の称俗人士大
夫の新にくは又俗人法のごとくの儀式
あり礼禮ありて梵唄参唱を歌ありて鐘磬螺鼓を鳴
さて楽ありくは是釋氏を神楽法樂抜くはそもそもれ
ばかりくは釋氏は本世外にして別に一つの道法立る
事なれば国家乃制をもうけず士民の別なく

者にくいつくもいつとなく今のぬくふあるをいて國家の
制をうけ士民を異ものとなる者をいふ釋迦の
乃ち愛憎しまるるは見えぬ人を実に天下はたかく所
ぐけいの自然の理物也元て國家は聖人の道にて
捨てハ一日も治まらじ天子ハ庶人まぐ是を敬
て一日も立ぬ仏法ハ人を向ふに廣大ふ
説いても畢竟一心に治く獨身を自立あ樂に
するのみにてあるにて家を治むる道ハあらず
仏法ハ人を愛ふいうるの智恵ありても天下國

家を改ることあるべからず仏法を却て天下の法制を変
け古民の事に列する者ハ聖人の道をすぶるなり
乃ち天地の間の物ハ人の道にしかるべからず
道中に無ハ仏者の遠なる事ふを少しもなく
儒者の乃ち國家を治ん人ハ誤ていう儒者
ようなる様に治ん時ハ天道ハ背きたまふ
乃ち有べくハ儒者の道を聖人の乃ちていハ聖人の乃ちハ聖
人の罪をそなへる乃ちていハ乃ち地自然の道かくあら
でハいまだ成ぬ置してうかく宝義ハ儒者

是すなわち天地の道なり人なり形ありて加へるまふ
ことは学くは道成開くこといふを道なき野山を拓くなり
開き拓くなり拓くは開くに日本の名山小角役小角が道
成開きたりといふを今人ただ成開くと其山に住
いおふ近き所をもとめ易き換ることをいへども近
き所易き道成りゆくべき所をもとめ年月
を害にあひ出ぬ者の達人の舞たる所行へば遠
き所換ることを為さまもなく迷ふこともなく穏に
往来しい行ふなりたる役小角ハ生性の霊智をもて山海

を行ると後人の為に置き所成開き置く数おくに聖人
をもおく聰明睿智成ひとを地形抽の理を知て天下に
あに為行不易の道と開なまひ知てを桃開開発の
初ふ人のまどろる所い久しき池に魚乃生じ腐うる初に
出ぬ生ずるが如く自然の氣化なて生じ多ある者おくいさる
成り其時の人を生産上下に品物分ち別ちまに人にこい
号成年民と号ハ形ち人ありくゆくべき人ハ禽獸小異なり後
男女一変ふこと成る者成て日成送りいを角に衣食の求め
をくてけいざる数に進ぜ形を人と生性の智慧

ゆく御代を助け家さを禦ぐ計略成がたしいかるに人は
性き強くあるく喫き者あり魚方の者行く強き者あり
弱く成ぬ者あり喫ぬ者は能く飢を免れ成ぬ者は飢
を免れ成ぬ者は弱き者を奪ひ弱き者は強き者に奪
ひ強き者も強き者に奪ひ合成奪ひ合て世民の
中に爭鬪といふこと出来いと幾億万人の中に聰明
睿智にして神妙なる智恵の人出来て彼恵る者に
衣食の方を教へ爭鬪を止めしめ不敬沙汰
を暴虐なきごとくしむ

服して何のもてなしも分別なく事を行ふ
同じ爭鬪する者共を集め裁判をなむ
を統ちの世に郷里長老の者共を集めの
に法ふがごとくしかるに近きの人帰服化
ふ者を及ぶ遠方の人を招きもるがごとく
法人まどりて先きを待ぎ上古の盤古燧人
いふ人ありて後伏羲神農黄帝堯舜も
聰明睿智仁徳を知る人ありて民の
自己ゆまりて民の先きを為人ゆ

此様に睿智仁徳乃至れる人にして此聖人上に
立て天下の人を仰がれる事なれば天子と称し大君と申
天下の人皆君臣の始まりは上に大君なければ下
も亦大小ろ相ひ長幼を立て其上を治む皆是
の道なり人の父母たる者は禽獸に乳哺の恩あり
故の時父母を慕ふの心あり少長じて離別すれば
互に忘れ親を忘れ後夫婦となり互に争ひ
人を牛禽獸の如く形骸のみ聖人是を憐れ
示し教ふる為に父子の道始りは

禽獸
夫婦なり雌雄牝牡の情欲を以て夫婦配偶の乃なさ
故に父子同産交合して互に生ずれば人も亦禽獸なり
なりしを聖人婚姻の禮を制し男女の別を立て
淫乱を禁じ夫婦の乃始りは男女
同産の子孫あれども兄弟姉妹の事
禽獸なれば同産なるの親を以て愛
互に牽制を加へ教ひ導き
幼乃節を制し父子の乃道を立て朋友を以
て互に人を牛禽獸の如く信義なく相手

むね奪ひ相殺し相害するのみなるを聖人見給ひ
仁義を設て朋友の道を立給ふ是君臣父子夫婦兄
弟朋友也これを人倫の要とす是を五倫とも五典
ともいふ此人間に具たる道一つも闕ては治まらず
然に人は慾なき者はなし慾ある者は情に迷ふては財
宝を見ては欲しく思ひ食物を見ては欲しく思ふ
此欲にては此欲ん迷はゞ卑劣なる心を
起し掠奪竊盗殺害の悪行をしけり掠奪竊盗殺
害を禽獣の行ひなれば聖人是を悲み給ひて義といふ

ものを立て教玉ふ是は然じ人々身に具へたるなき
すこしも私事ともなるを上古の愚民これを知らずして
為べきことをなさず私事をなし禽獣のおひ
なり聖人は教玉ふ義といふは為べき事をする御心定
なすべき事をするべき事をなし為すまじき事をなさざ
だ是を以まれども聖人の義ならずは此義する者は聖人
の道なるは男女は教る人情の為なく智者も愚者も分
なく此は此義を悉りすれば人はみな婦女は盗と人倫を
知り禽獣の行ひを恥じては人々必利を争ふ者なくは

さもなくんば人と家とを相伴なうことをみるに力を尽さざるはなし
中ごろ多くは思ひ異なれる深さあるあり居
たくさんの者ども温和なりかつまた若く智ある者
多くはいたづらに遊び歩き人を推のけてそれを利
のぶるなれば争奪乃事起りて人倫乱れ亡ぶ時
なし是をかいて輪義の道を人皆捨てて
独り行ふ者なし是を家の妻妾なりしてかの〳〵ざまバ人の婦女を犯さざる利を争

ふ者なし制して妻を深さ妻不人を捨て去る者は温和
新なる人を居〳〵しむ是儀乃道すて禮のなきこれ
礼と義を捨て聖人の教へて人の心を元来具しる物をバ
自分の上古の民ハ是礼を知〳〵ざる故に兼愛〳〵ふ事なし
て是義のりを行むひ聖人出て礼義を教へ
てより人と廉恥を知て人倫乱れ人を失ひ禽
獣を伐ふ物ふ者衆人の中に善義のりを捨て者
いつる礼乃人ふ者ハ聖人乃教の力ゆへ
人の教を礼義より婦りの人倫礼たゞ去ることを礼義

ちくに禍乱の教りのこれるを人間氏乱やまして天下治
り黎民安くなりぬ民をあうまる氏仁ちの仁人
の德をもてぬ盤古燧人はじめ地開闢の初乃至人をもてぬ後伏
羲神農黄帝堯帝舜帝禹帝ハ皆聖人にて天下治ちぬ
ぬ帝ちりぬ二皇五帝ハ皆聖人にて天下治ちぬ
ぬ帝ちりぬ三皇五帝ハ帝業までハ世のいまだうるわしく
治ちる者ハ聖人の智氏用をもちゆ不民の為に禽獸
害を除きさ衣食乃業を授け器物を作り利用氏利し
て物ちすし民を生育氏始たまふのを尊ち堯

舜の時水災ちく養育の具を大略成就して業事制
度いまだ定りしを堯舜聖智氏以ちく多くの賢
ちる人氏挙用ちく皆人中より朝廷にて議論しなりぬく
業事の制度を定めぬ以ちりて天下を治氏民を安
りする乃大きに開闢ちく業世の大法ぬりぬ其後夏
殷周三代の聖王も堯舜の道氏師として天下氏
治ちるまぬ時代の移ちる氏ちく少乃損益をぬ加ぬ
伝氏ぬしちく禍乱をぬ治ちるぬ氏乃ちく乃ふ拙ぬ
ぬ人を治ちる道ぬ釈氏乃法ちく聖人の乃ふ法を事ぬて

人事をもて活物をうごく静をもて人とすれば
活動をうごく活人ことをもて、活乱をもてすれば動くも
人静りんとをもて乱をもてうごくに乱をもてうごくに
うごくに乱をもて一つにすべし云うまでに
事
うごくに乱をもてうごくに活人
をすがすがすがしく乱かくまでに静りんとをもてすがすがしく動
乱をもてうごくに心を小児のごとくなるをもてうごくに小児をもて何のごとく
善をもて悪物に対せ悪をもて人だうを成敗して悪に成敗しに
悪物をけまに対せもて静りんとをもて居るとして
居るに小児に対しまてうごくに一をもて静りんとして居るし

りんとをもて必ずつり嘆をもてひろまに成又後をうごくおさ
一ひろを後をもて病成おこうにんをもてうごくを慮の記
新を心乃役をもてに役をもてに妄念妄想をもてをもて見
を制しに制をうごく制せるし妙物を強くうごく制せるべ
後をもて人に辯法をもて病なるに見成必疾をもに
をもてば世の中に知をもて研究をもて日夜工夫して終に性
能志をもて癡人のごとくなるをもてうごくに成攻をもて悪の禍
をうごくに小児に成をもて病をもてうごくに成攻をもて悪の禍
の数をもて法をもて家をうごくに成法をもて法をすに書

經りに義制事に禮制心ふらいふハ殷の成湯なるや我
いへる交まて至人の道乃肝ゑてい以義制事といふを
天下國家の大事ゝ刂吾人の身化乃小事に至迄
凡事我取ゝ為ゝ己の私智に任まれハ必ゝ
小過不及あり紅宮ゝ置先王の義を
ゝ事我料ゝ事ハ為ゝ故ゝ
我宜き不我ゝ宜を以義制事とい制ハ裁制ゝ
細工人の拙なり形我なゝ
制ゝ人ゝ人の程々の情欲乃ゝて制し

がゝ我物ゝて情欲我恣にまれを法の恵志細ゝ
ゝ繫ゝ牛ゝ凡放ゝ河水の溢ゝ
なりい我放逸無ゝ中い先王の禮ゝ人乃情欲を塞ん
為に作ゝ為ゝ河の堤防ゝ凡ゝ情欲
乃起ゝ附礼法我国ゝて欲を恐ふ我以禮
制ゝ中ゝ情欲の起ゝを防ゝて止ゝ
ゝ先王我禮我制ゝ父母ゝ
ゝ凡情欲ゝ制ゝ好逸ゝ
い佛道ハ人我治ゝ我專ゝ故ゝ人乎ハ

妄と云ふ所は邪を罪とし、善を悪とし、一向に悪念妄を
起さぬ様に学びは是甚難き事なれば凡人の及ぶは
人中に悪念起らざるを能く能く法を守る者を
学ぶ者なれば人中に悪念起らざるは心中に悪念起る
対治不善法を小人と中はたとへば男女と云て
善を法と云ふ人情あれば情に任せ法を
犯す事なり他の婦女に戯れ小人なれば法を
守り情を抑へ慎み義に従ざる他の婦女に戯

れをいとはざる情を起すなり善法を
ざるべからず上に云る所の情の部なれば外なる法は
仮初なり妄を云ふ部を戒むるにくべし
るは甚易きなれども世の婦人に法を守
ず不始を思ひ犯事をなして有るべきを出来ぬ
事なれば法を守て犯さざる者の行ひを慎て視聴言
動をとがめ慎ばなる遠ざけ慎まざるべからず
身に善を蔵つきて義を修ぶ人を学ぶ
たぐしくは是法務を修ぶ情欲の悪ばかりを

君

後世に流れ来の世に及て程子朱子專ら成ぶく宗
とすれども人少数にして孟子は人性成法せずして自ら
の為にすれば宋儒の心性を説くは皆孔者のまねをして古の
聖人に成法するとそれ教へ[illegible]まねびて経書ふる禮記の
樂記の中の数樂以治心といふ文乃ち天地よりの外に
治心の文字成ぶ樂記の意を聖人は道ふ人を治る
ふ[illegible]者くに心に治物わて智をも兵法にして拙るる
者に何ぶ[illegible]も若き技術成めてあそび去さまでは必敬
[illegible]しくこそあがくに玩物の為くまる事ふ樂ふ去く

者は学くは樂をつくり歌をうたひ舞を嗜み
なり仏事あるは歌舞音楽いろく人の心を
者なり為て耳目を見て足手を動かしたるを
為てもんたの為に要会部ぶは但樂は雅楽俗
樂の差別はなく雅楽は人乃人民すなわち
ち人は賢をうかしは雅楽は貴人の作るまつる正樂
ふるは俗樂は世俗の淫樂にくは今は世の三線浄
瑠璃のふるは淫樂にて楽記ふんは治ちはいた
雅楽のごとくは右は者平日琴琴は側ふ遣て

閑暇音楽の大関は此をくべなくつまくさなぐさ
はすべくく人を安眠せしめ大きなる時哀会部りやを
ふくは哀会乃起る成只庵めんをくはのまずはを庵あ会
ちは成すなわち接会あるは側に生る琴琴をしよせて爪
ちべるてもすれ孔なる稚ふんは稚りく高会やもそすか
ちもんは治るふくはひふるは心成治る側はをくは者
は為に心を治るは仏乃稚まるは作は是は
宋儒の色多にくべく治ちは此仏賜はふしこる
ちふくはんは法乃法は仏乃ふく精微を極めは宋

儒の心法は佛道をもつて仕擇とする故めいめい根本の仏
性を教へ給ふ故に佛の正覺なるゆゑ及ばぬもの無しとの仰あり
然るに一ぶ修行の功傳ふ精しきさ物にては佛道は五千餘年の
間諸国に移るこの法式説き移しの教式なほ及ばざる所
はんは法式研究外は半ばに行の有て心法を雖
て精微を盡せること毫釐を選ばざる是奇妙なるゆ
ゑなり故に教式の教不足て知法を所さはく悟解開
るゆゑは此のみの一つをあらはすの業なりて士農工商
本業ふ補なくして國家の為に何の益も無く

迷ひて畢竟是の教ふるは人の乱治るあと
を教へるこれは禮義をもつて心わるがるを治りいた学
問を孔子の教に倣て先王の道を学びゆくば家分一つ
乱治るより天下を家を治るに至る故何のことを見るゆ
ゑ孔子の道を公に治る一つぶ於て仏道はまれるを
称せるこれは不審なる方にはいとど程朱の説を学びて
いかゞ孔子の道に成ぬ程朱の説を仏法の教り
治或ひは此の中すみて程朱の説を程朱の学なる
道とて孔子の教あるこれは孔子の道は孔子の作り給

一るに行ふ事ハ二帝三王の道なれハ二帝三王より乃ち地自
然の乃ことおのゝ人間ハ道かくあるべきすぢ我ら人ハ
つけなまじく開こゝろ人ハ自ずからいへ天下の道人の乃ち所ハ
ちくハ弘ちへハ通邑大都に必注意ハ大乃あるがゆえこそ
以ゆえんぞ人の性善なれハ千百人も一人を重ねかたし
見識の者ハ善ハ
有るべしハ弘ちへハ通邑大都に注意の大乃我行ハ
して聞乃我見つもりていくゆえんぞ少ていハ我の道なる先
王の世ハ乃ち道ハ乃ち道ハ乃ちづけて堅く禁じ堅ハ乃ち舜の乃ち

外小奇異なる道を立ハ乃ち乃ち道ハ乃ち礼記の王制ハ
執左道以乱政殺ハ乃ち乃の法ハ先王ハ世ハ乃ち死
刑ハ乃ち乃ち殺ハ乃ち乃ち殺ハ乃ち乃ち殺ハ乃ち乃ち
人ハ乃ち乃ち大道盛ハ行ハ常ハ人ハ我信用
せざるハ乃ち世ハ弘ちることなくて止ハ乃ち乃ち日ハ乃ち
火の光ハ乃ち乃ち乃ち乃ち乃ち乃ち先王の乃ち
一ハ乃ち乃ち我ハ乃ち左の法ハ乃ち立ハ乃ち乃ち乃ち乃ち
道ハ乃ち乃ち中ハ乃ち楊朱墨翟老聃荘周申不害高
韓非ハ乃ち乃ち者ハ乃ち乃ち乃ち乃ち乃ち乃ち乃ち

世に弘まりて後世までも伝りは漢土へ渡り蛍
火燐火打木の額まぐく時光成殺するが如くあるは
秦漢乃代を失王は世を去て未だ天下の
孔子の道を学ぶ学しは百家九流
を絶らしし故に天下の人皆左道の邪を知りは孔子へば
月は夜に蛍火の光かがやくが如くあるは漢の末より仏
法中興に成て南北朝を経て天下に弘まり唐の代
まで盛ふ成りは老子の道を漢の代より始て
唐の代まで盛ふ成て天下に流布たく

仏法と並びは釋老乃二教乃外に稱く乃は左乃ことて天
下の民を惑りて多くは虎狼乃如に成て
ものく時に教に学ぶの光甚しきが如くなりの日本に
元来道乃ことく弘神乃成法に近き者はなく
邪国乃ものく云ふ物なる故に世に出しは
学ぶ者は仏教は日本に道乃ことく云て儒教は
仁義禮樂孝悌の字乃如くは凡日本に元来乃
ものに和朝は八日本に元来乃
ものと乃に稱義と乃ことく云りし故に神代乃

人皇四千代の比までハ天子も只実叔姪夫婦にて有しが
いつしか君臣の義と成て中国の古人の乱世に行
はるゝ事ハ義理学問ハ中国の人倫の礼義を知り人倫の礼義を知り人倫の
今此世の様子を考まゝを行義に背く者ハ禽獸の
如くに思ひ人聖人の教乃及ぶかぎりハ日本の世界
に中国の諸昔の教ゆゑ金人の乱
治りハ世を治めて天下の人をして皆人の教ゆゑ
秀賢ハ下陽明ハ天竺にて五倫貫

中に居て孝悌をあんじ庶民業を家業に成樂み奴婢臧獲寡孤獨の事までも暴虐
ハあらざるを平治ハ海内なれハ金人の不ふるまひ
にて人を人とも思ハず犬畜生の如くに成ぬ
るゆゑ聖人の徳を以て聖人の徳を以て廣大な教ゆゑ
ゆゑに聖人の徳を以て世界の人日月の如くなる徳を以て世界
の人日月の光明ハ照されぬ所なく一人一家ハ
為に照日月に向ふ如く世界の日月ハ世界に
遍満する光明なれども一人ハ文日月に向ふ

感戴しく有ずくおもふ光ってをくいやうまあやみの國り
日月始て出いでゝ人皆尭の恩ひをおしへ舜くみづくく
拓ぐ所くに至人の在る其めく蒼海外に遠き國もまた
人倫の道おこなはるゝ聖人始て出ひて今に始めくの
仁徳代に行しあまねく土民皆帝有の恩をなしく
手沐代感戴せざるに凡そ生人の徳は廣大学者ある
あるく一人ごとに賑り興ぶる多所の人を思ひ出るる
の業たりしく是者ものを紀ぶ事ごとにいふ事紀ぶ
千万世の後ある人で其道深ひ上下万民おく

ぐ所を教を更に仁徳に化育せしめ給ひ人で皆代至
人といふる如何ある人ある人の乃ちつふ所何なる教
事ごとを弱る人さへ光ちまあくに是すれ所ち
至人乃徳大廣大なるこあるを紀ぶ代乃素し利
法子乃家部りて拓くの道術世に伝りいたを
乃ちまバ皆名ちて国家治乃代治く一理ちに治ぶ
拓まで秦漢以後歴代のを法子乃家乃乃ちて治め
ちりは皆くに是代拓ち藤ちで至人の道八教あくに
法乃万ふ乃尺繁業ちて五教人の性命ちあの

拙者天下の人上より下まで一日も先を争ひて
なほ足らぬ程までも穀を多食とし後中に浮り或は
そこ冷えの拙者人の胃腑を傷まして病ひなりて人
を悩ましいそ煩ひ海ぶれを穀も人を
殺せば拙者病を治す薬なり下剤苦味する薬
は病を治す薬なり熱を治す薬
有り醫者各其病ひ治すべき薬與へば病愈
なるなり穀を以て一つに五穀を傷れ
たまべかるべし拙者病を治す薬

病ひを治し急
の類を乃食べまるを先王の道と大中至正に
まるべし先王の道を大中至正に
あらず人世に西東の異あり
ひる人少き奢りて道の罪みあるべし
啜り餐る飯食べ胖四肢傷り病ひを治して死する者
あり食べる人の奢りあるべ米の罪みあるべ
凡穀を中和の味にて毒氣なきを取て乃食べし
て性命を治べ病ひを治べ大中至正に

ゆを偏なるとなるに故さ人民あるほどの西ふけいくふを
さそうし事くい業報を性の偏なる者あくい偏ゐるこれ
を病代治寸ることなければ本末に大毒小毒公毒悪の
ほをたるこれを病に偏いい偏乳よりしていい偏新は
すれをもち毒乳くいちまで荻巻白彩ともに悪く現れ
人代害しい法を百家は道をもちれく失ものの乃の弊をる
附ふれくおもしくに一家の長代法人各別の見識那
まに甚だもなくなまれ早美時死世を治ゐ天まそい
国家を病を癒治する創なる形て衰亡の世代治ゐ

捷径なるもの也どを偏るるとあるて中和の道ふ行
らざる故ふ一方に利あれど一方に害ありくて下治世
にりしびくくい法を百家は皆古道ゐれた國家を治
ゐ代めくい釈氏ハ人法代治るのみあて天下を家を治
新道をもつびくい仏法盛にりいい飛てをもふも仏
法代始む人あれくく甚しく乾乗をもへども天下を
政事を仏法ゐてり業をもしるハ未あるるる日本代
本業をるる仏法新ふ尊やく上をりトまでことごく
仏法ふ偏依しく王法を崇すり習ひ

みなくいのちをたもつ殺生を犯し人倫の道を闕くハ一日も
たくまじ仏法は人間無比難く生を受て学ぶ世間
方外ならぬ国家法令に遠い世間を忘れ武士
行ふハ是亦一日も欠ぬ仏法殺生を嫌ひ
慈悲ぐれども海辺の民ハ耕作せず魚を捕て産業とす
る所ハ甚多し仏法ハ教誡ハ経典に仏説禅ハ経典
し或ハ大法を滅し或ハ大殺若輩を教唆ものもて
動ものから漁家を養ふ福徳行ふ漁家ハ
神仏ハ魚の多く集り来人に捕られ殺

魚多く捕られ漁家を利をひて産業豊になり
を浦数多ある所ハ仏法も信ぜず甚邪淫を交ぜ
海辺に住む信ぜ魚を捕ら魚殺ぶれば魚の殺されん
ら殺祈る所ハ殺すと同科ましてハ仏菩薩
の力無く教生殺禁ぜ仏法の信ぜ世ハ海辺にも
魚乃集まる来ハ海辺のもの
民ハ皆産業殺生業の為て紙を書く日本の内にても東
西南北の海辺ハ元禁ず民ハ利して魚殺捕ら
こしく耕作せず乞食ハ多く

妻子成たごくみ其餘[illegible]仏成佛養〜佛ふ希[illegible]
ち路を造り法令成り善[illegible]の乃成[illegible]
いふ形を修化の名僧を浦島此民乃新生を夢ずる事
なくこたまを佛法を成通て繁昌を祈ぐも海島ふ無の
集をる事いふ法をかくべず日〜に衆徒の海の数なごの
重ねのまれて綱年に入るを乃祈ぐ仏を成厭ばる
ぐ祈ぐ乃佛は力ふこを夢ぐることあらぶ祈りてみるべ
ぐの徒乃ぐこの僧侶を宮民の外ある者の振なれば
寺ふ成等ぐ乃ふて早良民乃列を祈るぐ志は

なるぐ乃ひ出僧は乃ふを僧は常の人より生き者は振
ふふ乃ふ大なる寺僧ふ侍ぐ官祿ある僧ふ度
人乃類して以ぐ士方支乃列にていを修は一寺の行祈
みくを宮民と同事ふて乃ふの人号奉形ふ乃ふ尊貴
沒や法宗乃学徒又を路を食の僧ふ浮雲流水を
祈くるを者なれば宰民ふと及ばず祈ぐるを乃僧の
中ふを寺成僧ふ学問して道理を辨へ佛祖乃法を
ちとく乃を乃ぐ志ふ清淨を敬して一向り善
授成求る者ふ百人に一人をある乃誠ふ仏法乃世ぐ

中ごろ聖徳太子あり仏教を興し給ふ儒教は孔子百家諸子等の教法を用ひ給ふ
其道を学ぶに一筋に取べきなる所なし仏法を
慕ひ給ふ又孔子百家を兼学し給ふ仏を
人類にも劣る物と思ひ給ふ異国にて出来る儒教は
法成絶さずば国家治ること善く学ぶ志
ある人は儒教を学ぶ
国家の病を治し給ふ聖人にて御座候
ゆえに儒教は古代の聖人の教なり

正法は国家の宝なり
小乗は日本の神道は又
小乗道にて改革好まず
乗は仏教も神道も堯舜の教法
ばかりを神道は中興の古代を日本代々の世にて
堯舜の教にて治りし法を百家を学ぶ者
尼
百姓
王者の民みな王法のみを学ぶ
国家成治る人堯舜の教業をぶして法を百家を
捨て或は仏道或は神道を好むもの家の乱
濁にて仏教人を妨げ人道を下攻撃の業成服する

が如くなるべくして堯舜の道を伝へ一人を孔子といひ孔子は
数千歳を経て堯舜の道を学びひろめて天下の事物のことを
学ぶものすなはちひとり孔子の道を伝へ学ぶのみにあらず宋
儒の説を信用ひいたく古義に通じたまのごとく孔子の説
教一事に帰し聖人の道を捨てず仏老の説を用ひず博
き事物を究めて神妙を尽くして心を治めて及ぶべからざる精治
なる教へ聖人の説を治めて教へたまひ者を治め
者を治めんとすれば堯舜より孔子まで数多の聖人の中
に某の人聖人にいたるのたしなみ後の聖人忍ぶれを

伝へる為くにこの方法を捨てる者人の道を以一すを閑べき
乃理なくはなくはなくは考あるまじと存ぜし先生の道は孔子に
到て大成を集て教法第世に垂たまひ伝へて子思孟
子よりかづく考へあるまて宋儒ふるく大ふ差ひ今
者
者を学ぶ孔子伝ぶして程子朱子伝ぶして歌ふ古聖
人乃乃ふ達せ度い家ふは子思孟子より以下伝捨て只
一向に孔子伝ぶしひ聖人の道ハ捨て明ふかりい純
さいつぶ人の為ふ著しい儒者ふ紙学問会に古学
の大ふ違いの出ふ遠いの出ふを以て後日に進後すべく出ふ参ふ

を反覆して術後の考へを不審とひらで再問致候ハヽ

ゞ[illegible]ものを[illegible]ゞく先王[illegible]法云に倣て孔子の教を述る

紛乱なる[illegible]一々沙汰あり事[illegible]くは疑慮[illegible]

市止のく事細[illegible]雜あり[illegible]くは[illegible]

辯道書 甲

明治六癸酉年十月東京求之

長崎祐

林寛寺藏書

辯道書書後

古先聖王統御宇内也以天下為一家以中國為一人當是之時車同軌書同文故異行者有誅異言者有禁道豈有辯邪百家往而不反人執其所見家夸其所長譬之耳目鼻口不能相通道豈無辯邪蓋不得已也春臺先生有嘗與人辯道書書賈須延年適見以為奇貨可居遂

請上木云嗚乎道之裂也猶七國自王也此書
其終成秦政一統之勳歟方今
昭代同文之治興隷亦能解國字則此書之行其
必速於置郵而傳命哉享保乙卯復月下浣
大泉莊内水野元朗書于東都神門邸

帝國圖書館藏

右辯道書去宰相太湯撰而清書
追付聖学問答義板行仕
享保二十年乙卯十一月冬至日

江都　書肆　嵩山房
須原屋新兵衛開板